2015年環境取り組みプラン（目標と実績）

世界から信頼される商用車メーカーを目指して

日野自動車は、2011年度から2015年度までの環境への取り組み実行計画として、「2015年環境取り組みプラン」を策定しました。

この実行計画では今後予想される社会動向を踏まえ、社会の生活基盤を支える商用車メーカーとして、積極的に環境課題に対応していくため、次の4つの枠組みで21項目の目標を設定し、活動を推進していきます。

■「2015年環境取り組みプラン」の枠組み

■2015年環境取り組みプラン

枠組み	分野	項　目	具体的な実施事項・目標等	2011年度　実績
		エネルギー多様性を踏まえた	＜電気エネルギー＞ • HV(ハイブリッド車)：新型HV車を開発し市場投入 • IPS(非接触給電)：実用化に向けたIPSバスの開発 • FC(燃料電池)：FC車の研究と開発	• 新世代ハイブリッドシステム搭載の小型トラック「日野デュトロ」を発売 • 中型トラック「日野レンジャーハイブリッド」を平成22年排出ガス規制に適合させ新発売

<table>
<tr><td rowspan="9">低炭素社会の構築</td><td rowspan="2">開発・設計</td><td>次世代車の開発と普及促進</td><td>＜代替燃料＞
• 新燃料：GTL燃料対応車の研究と開発
• バイオ燃料：バイオ燃料対応車の研究と開発</td><td>• 国交省プロジェクトに参画し、IPSバスの実証走行を豊洲～東京ビッグサイト間で実施
• 小型ＥＶバスを定期路線向けとして、全国で初めて羽村市および墨田区で営業運行開始</td></tr>
<tr><td>各国、各地域でトップクラスの
燃費性能を目指す開発と各国基準への対応</td><td>• 世界トップクラスの燃費水準の達成を目指した技術開発
-日本：平成27年度燃費基準の確実な達成
-米国：2014年新大型燃費／温暖化効果ガス基準の達成
-欧州：次期規制に向けた燃費向上技術の開発推進
-中国：新燃費基準の着実な対応
-そのほかの地域：燃費規制に対する対応技術の推進</td><td>• 重量車燃費基準(平成27年度)達成車の拡大、および新エコカー減税対象車ラインアップの充実
• 各国、各地域のニーズに的確に応えるため、燃費低減技術の開発を推進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生産・物流</td><td>生産活動における省エネ活動の徹底と
温室効果ガス排出量の低減</td><td>• 低炭素型生産体系構築に向けた全社活動の推進
• 低CO_2生産技術の積極導入と日常改善によるCO_2低減活動
• 再生可能エネルギーの活用検討

エネルギー起源CO_2
<table><tr><th>地域</th><th>項目</th><th>12年目標</th></tr><tr><td>グローバル
国内連結
日野</td><td>台あたり排出量</td><td>08年度比
4％減</td></tr><tr><td></td><td>排出量</td><td>90年度比12％減
（08年度～
12年度平均）</td></tr></table></td><td>■グローバル
• 台あたり排出量
08年度比　4％低減
■国内連結
• 台あたり排出量
08年度比　9％低減
■日野
• 台あたり排出量
08年度比　4％低減
• 排出量 90年度比
17％低減（08年度～11年度平均）</td></tr>
<tr><td>物流活動における輸送効率の追求と
CO_2排出量の低減</td><td>• 輸送効率の一層の向上によるCO_2低減活動の推進

<table><tr><th>地域</th><th>項目</th><th>12年度目標</th></tr><tr><td>国内連結</td><td>輸送量あたり排出量※</td><td>08年度比12％減</td></tr><tr><td>海外</td><td colspan="2">目標管理と低減推進</td></tr></table>※輸送量…荷量（トン）×輸送距離（km）</td><td>■国内連結
• 輸送量あたり排出量
08年度比　13％低減
■海外
• 物流CO_2　実績把握中</td></tr>
<tr><td>販売</td><td>販売分野における省エネ活動の徹底と
CO_2排出量の低減</td><td>• 国内外販売拠点における日常改善、各種事例の横展開による省エネ活動の徹底
⇒年率１％以上の計画的なエネルギー原単位の低減</td><td>省エネ型照明の導入、空調の使用制限等により削減
⇒総整備台あたりエネルギー原単位前年度比8.8％低減</td></tr>
<tr><td></td><td>気候変動政策への積極的な貢献と発言</td><td>• 経団連、自動車工業会等を通じた低炭素社会構築への取り組み推進
-環境政策議論、枠組みづくりへの参画</td><td>自工会各委員会、部会への参加（安全環境技術委員会・環境委員会ほか）</td></tr>
</table>

	社会との連携		-自動車工業会等と連携した統合的取り組みの推進	
		道路交通セクター（運輸部門）における 統合的なCO2削減取り組み	• IT、ITS技術を活用した交通流改善への取り組み貢献 • エコドライブ啓発活動への取り組み推進 -国内･海外販社での講習実施 -お客様へのエコドライブ認定証の発行拡大 -お客様の使い方に応えた物流効率の高い車型の開発	• お客様に対するエコドライブ講習実施 11年度受講者数　国内：7,117名　海外：937名 • 交通エコモ財団認定 受講修了証を3,781枚発行 （認定事業者中トップ対応） • 物流効率の高い車型の開発推進

枠組み	分野	項　目	具体的な実施事項・目標等	2011年度　実績
循環型社会の構築	開発・設計	資源の有効利用に配慮した リサイクル設計の一層の推進	• 解体性を考慮した、取り付け構造への取り組み • リサイクル材使用部品の拡大	樹脂リサイクル材の使用拡大を推進中
	生産・物流	生産・物流における 排出物の低減と資源の有効利用	＜排出物・最終処分量＞ • 歩留まり向上等の発生源対策推進 • 社内再利用の促進による排出物の低減 • 有価物の日野グループ内活用促進 • 最終処分量ゼロ化 地域｜対象｜項目｜12年度目標 国内連結｜排出物※1｜台あたり発生量｜08年度比16％低減 国内連結｜最終処分量｜ゼロ ※2 海外｜廃棄物｜目標管理と低減推進 ※1:有価物を含む廃棄物の社外排出量 ※2:焼却灰も含めた埋立処分量が、廃棄物等総排出量（廃棄物量＋リサイクル量）の0.5％以下 ＜梱包包装資材＞ • リターナブルラック使用対象国拡大 • 補給部品リターナブルラック使用の拡大 地域｜項目｜12年度目標 国内連結｜出荷容積あたり使用量｜08年度比34％低減 海外｜目標管理と低減推進 ＜水使用量＞ • 省水技術の積極導入 • 日常改善による節水推進 地域｜項目｜12年度目標 国内連結｜台あたり使用量｜08年度比18％減 海外｜目標管理と低減推進	[排出物・最終処分量] ■国内連結 • 排出物　台あたり発生量 08年度比　12％低減 最終処分量　0.52％ ■海外 • 廃棄物　各国個別に目標設定し低減推進 [梱包包装資材] ■国内連結 • 出荷容積あたり使用量 08年度比 45％低減 ■海外 • 実績把握中 [水使用量] ■国内連結 • 台あたり使用量

				08年度比　20％低減 ■海外 • 各国個別に目標設定し低減推進
	販売・リサイクル	資源有効利用のグローバルな推進強化 グローバルな自動車リサイクル法への対応推進	• 効率的な解体方法、ツールの開発とグローバルな情報提供 • グループ内での中古部品利用拡大に向けた取り組み推進 • 日本：リサイクル率トップレベルの維持と、法改正への適切な対応 • 中国、新興国：各国法規への適切な対応	• 国内：2011年度ＡＳＲリサイクル率94％ • 海外：ＥＬＶ法規への対応準備着手

枠組み	分野	項　目	具体的な実施事項・目標等	2011年度　実績
環境保全と自然共生社会の構築	開発・設計	各国・各地域の都市大気環境改善に資する排出ガス低減	各国、各地域の都市大気環境改善に資する低排出ガス車の導入 -日本：ポスト新長期規制対応車を継続して市場導入 　2016年以降の次期排ガス規制の対応技術の研究開発 -米国：US10適合車の市場導入 -欧州：次期規制EURO6の研究開発と対応 -中国：EURO5レベルの導入推進 -一般国：低排出ガス車（EURO3、4レベル）の導入推進	• ポスト新長期排出ガス規制の規制適合が全車完了 • 2016年以降の次期排出ガス規制に対応する基本的な要素技術を確立 • 各国における地域適格車を適時に提供できるように、各国の環境条件に合致した排出ガス低減技術の開発を推進
		製品含有化学物質の管理充実	• グローバルな製品含有化学物質管理の推進 -製品に含有される多種類の化学物質管理の徹底 -環境負荷のより少ない物質への代替技術の開発と代替推進	化学物質規制の国際的な動きに対応し、より効率的な化学物質管理の体制構築に着手
	生産	生産活動における環境負荷物質の低減	• 塗装工程における塗料、シンナー使用量低減等 • 日常改善によるVOC低減活動を推進 ボデー塗装 地域｜項目｜12年度目標 日野｜塗装面積あたりVOC 排出量｜24g/m^{2}以下（全ライン平均） 海外｜VOC排出量低減活動を展開 その他塗装 国内・海外｜VOC排出量低減活動を展開	[ボデー塗装] ■日野 • 塗装面積あたりVOC排出量 23g/m^2 ■海外 • 各国個別に目標設定し低減活動推進中

				[その他塗装] VOC排出量低減活動推進中
	社会との連携	生物多様性への取り組み 自然共生社会構築に資する 社会貢献活動の推進	• 各国、各地域での周辺生態系配慮の実施 • 従業員の生態系保全への意識向上とボランティア活動等の促進 （「日本経団連生物多様性宣言」に基づく活動推進）	各国、各地域で周辺生態系を配慮した取り組み実施 • 日高 - ヤギによる除草 • タイ - 社員120名でマングローブ植樹 • パキスタン - 海がめ産卵地の清掃

枠組み	分野	項　目	具体的な実施事項・目標等	2011年度　実績
環境経営・環境マネジメント	マネジメント	連結環境マネジメントの強化、推進	• 各国、各地域でのトップレベルの環境パフォーマンス確保に向けた活動の実施 • 各国、各地域での環境法令の順守と環境リスク未然防止活動の強化 • 海外生産拠点でのエリアマネジメント体制の導入と合理的な取り組み推進 • 国内生産拠点での各社相互監査による環境マネジメントレベルの向上	• 国内外関連会社の環境パフォーマンスおよび改善事例をレポートへまとめ定期発行 • 東南アジアの生産拠点における物流工程環境負荷（物流CO_2、梱包資材）のデータ把握開始 • 海外関連会社でのエコファクトリー活動の推進 • 国内関連会社へグループ共通の環境リスク評価手法を展開 • 東南アジアエリア環境会議開催
		ビジネスパートナーと 連携した環境活動の推進	• 仕入先：仕入先における順法対応と部品、原材料、副資材、生産設備等に含まれる環境負荷物質の管理充実および環境パフォーマンス活動の要請 • 国内販売：販売会社環境マネジメントシステムによる環境活動の推進 • 海外販売： 環境意識啓発活動の継続実施	- 仕入先 - グローバルな化学物質規制の強化をにらみ社内管理体制を強化、運用を開始 ■国内販売 • 全国223拠点にて環境改善活動を実施⇒改善・是正を支援 • 214拠点をＥＭＤに認定（前年比＋2拠点、認定率96％） ■海外販売 • 海外非生産拠点との月次データ共有 • 6月環境月間に合わせ、意識啓発活動を実施
		グローバルなCO_2マネジメントの推進	• 事業活動全般におけるCO_2マネジメントの企画と推進	国内外各生産拠点での削減シナリオに沿った活動を推進し、合計原単位改善※ ※対前年比、震災およびタイ洪水の影響除いた場合
		製品開発における 環境マネジメントECO-VASの推	• 開発段階での車両環境アセスメントシステム（ECO-VAS）による環境目標管理の着実な推進	新小型トラックでのEco-VASの取り組みの完遂

	進		
	サステイナブル・プラント活動の推進	• 自然と調和する工場づくり ⇒低CO_2生産技術の積極導入、日常改善、再生可能エネルギーの活用、工場の森づくりの推進	工場建設時における低CO_2生産技術の導入
	環境教育活動の充実と推進	• 従業員の環境意識向上に資する環境教育の体系的な実践 • 従業員の環境意識の調査の継続実施と、結果に基づく意識向上への仕掛け • トヨタグループで一体となった環境月間活動のグループ展開	• e-ラーニングによる環境教育の実施。 階層別教育、ISO内部環境監査教育、 ISO内部環境監査テストを実施 • 階層別教育の計画的実施 • 環境意識調査の実施 • 社長メッセージの展開 • 環境展示会、表彰等を実施
	環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実	• 各国、各地域での製品環境技術情報の提供充実（各種展示会への出展等） • 各国、各地域でのCSRレポート等の発行継続と発行拠点の拡大 • 各国、各地域での環境コミュニケーション活動の充実	• 「東京モーターショー」「人とくるまのテクノロジー展」「2011トラックショー」「日野技報」にて、新世代ハイブリッドシステム等、環境技術を紹介 • 国内外連結子会社4社でCSRレポート発行 • 国内外連結子会社で地域住民とのコミュニケーションを推進中

2010年環境取り組みプランはこちら